

毛呂山町在住

作家

TERUKOさん のおしごと



～新たにご出版された書籍等の寄贈の際に
作家としての流儀をお伺いしました～

PROFILE

●絵画・彫刻・作家などさまざまな分野で活躍。絵本「さかさま」では造本装幀コンクールにて会長賞受賞。2024年に舞台化。他、絵本「はんぶんこ」、科学ファンタジー「まるで魔法のような本当の話」等。今年、Gakkenより児童文学「コリット 機械じかけの心臓」を刊行。

創造の原動力 ～自作へのこだわり～

物語に限らず、ゼロベースから何かを作ることが好きです。ディズニーランドに行つてもアトラクションに興味はない、それらを構成する材料に興奮しますね。すぐ素材を調べて、業者に問い合わせたり、関係者から作り方を聞いたり。カレーを作るのにも、庭でスパイスを育てるところから始めたりします。動物園から羊の毛をもらってきて糸車で紡ぎ、機織り機で織つたりなど。

子供の頃の夢は「宇宙飛行士」「海賊」「魔法使い」。それらを全て叶えられるのは『作家』だと気が付きました。それに、これらの中では一番現実的な夢でもありましたから。

勉強よりも本が好きで、読書感想コンクールで1位をいたなくなり、文章だけはよく褒められる子供時代でした。中学では運動に夢中になり、高校は美術の学校へと進みましたが、常に本は読んでいました。



▲両側から2人同時に読むことができる絵本さかさま。シリーズ第二弾を12月に発売予定。

図鑑もファンタジーも文学も好きな子供でした。様々な本を読んで学んだことは、世の中にはたくさんの視点がある、ということです。「あなたにつけの正しいは他の誰かにとっても正しいの」と問う、「さかさま」はこうした背景から生まれました。

作家人生の原点

読者へのメッセージ

最新作である「コリット 機械じかけの心臓」のイラストを担当するのは「えんとつ町のペペル」のメインイラストを手掛けた六七質さんです。人間に最も近い存在として作られた「コリット」の物語。2巻では「モード」という世界も登場するので、毛呂山の皆さんに楽しんでいただけたら嬉しいです。活字離れが囁かれる昨今ではありますが、「おもしろい」物語には人が集まる、そう信じてこれからも言葉を紡いでいきます。

①蔵書は約2,000冊。美しくカーブした本棚を自作。②庭のコリアンダーを使ったカレースパイス③庭の花からインクを抽出。④家庭菜園の素材をふんだんに使った料理。



▼感動のロングファンタジー。



“おもしろさ”に妥協しない



▲ファンタジーの語り口で
自然科学を紹介。

●作品は町立図書館特設コーナーで紹介しています。ぜひ美しい装幀を手に取って見てください。
問合せ 秘書広報課広報広聴係☎295-2112内線332